



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

- みなと座談会 1
- 「北海道開発局防災エキスパート」
平成 19 年度研修会開催 12
- みなとパネル展 11
- NPO パネル展 11

みなと座談会

第 4 回目の「みなと座談会」は平成 19 年 11 月 26 日に日本の最北の都市稚内で開催しました。今回は下記のとおり地元稚内でまちおこしに活躍されている 3 名の方々と「北海道みなとづくり女性ネットワーク会員」を代表して、3 名の方に加わってもらい、「地域活動について」というテーマで、地域の町おこしの状況や課題等について話し合ってもらいました。司会は「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」代表の望南海さんにしていただきました。座談会には上記のパネラーの他にオブザーバーとして、地元稚内の女性ネットワーク会員の方々、官公庁から北海道開発局港湾空港部、稚内開発建設部、稚内市役所等 10 名の皆さんに出席してもらいました。議事の進行役は「NPO 法人北海道みなとの文化振興機構」の大野事務局長が務めました。



活発に意見交換される皆さん



〈参加パネラー〉

も な みすぼる
望南海昂さん (司会) (稚内のみなとを考える女性ネットワーク代表)

高橋みゆきさん (宗谷シーニックバイウェイ関係者、ガイド)

めいこ
岩本明子さん (最北烈風隊 (よさこいグループ) 代表)

西垣千佳子さん (大黒ひよっとこ踊り副代表)

大西育子さん (北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会長)

折谷久美子さん (函館みなとまちづくり女性ネットワーク代表)

佐藤尚子さん (函館みなとまちづくり女性ネットワーク副代表)

〈オブザーバー〉

稚内のみなとを考える女性ネットワーク会員
石塚智子、神正子、高橋由貴子、舟見みゆき、
佐々木登志子の皆さん

北海道開発局港湾空港部 港湾計画課企画係
光成係長 安永係員

稚内開発建設部 築港課 折原課長

稚内開発建設部 稚内港湾事務所 三原所長

稚内市建設産業部港湾課 佐々木課長

〈事務局〉

NPO 法人 大野、山田、山本、(中島)

はじめに大野事務局長から挨拶の後、出席者全員の紹介を行い、望南海さんの司会で座談会が始まりました。

〈地域おこしのかぎは地域の活動から〉

○望南海さん^{もなみ} それでは、「稚内のみなと座談会」を始めさせていただきます。

きょうのテーマなのですが、地域おこしの鍵は地域の活動からということで、皆さんに地域の活動の様子を伺いながら、これからの稚内、そして港町、北海道の港について考えていこうと思っております。

まず、岩本明子さんは「最北烈風隊」の代表をなさっております。今までの活動、そして現在の活動の様子を教えてください。

○岩本さん 私たちの現在の活動も、毎年同じような活動をしているのですが、年々人数も少なくなる部分では、皆さんには不満もあるのではないかと感じています。今後の活動に関しても、今はたくさん悩んでいます。

○望南海さん これからの取り組み、または今の問題点というのがあったらお願いします。

〈一番大切なのは自分たちの気持ち〉

○岩本さん まず、問題点というのは、よさこいチームである以上はある程度の人数が必要だということなのですが、いま、私たちは2008年度の活動に入っているのですが、人数、会員が22～3名の最小限の人数しかいないのです。

その中で一番の問題は、人を増やしていかなければ、お客さんに見てもらえない。地域の活動に貢献するためにも、みんなにもう少し危機感を持ってもらおうと、私たちは「最北烈風隊」を無くさないためにはどういう活動をしましょうかということ、毎週皆さんといろいろな話はしているのです。上の人たちに頼っていても限度があります。あとは、一番大切なのは自分たちの気持ちなのだと思うのです。やはり好きで入っているサークルです。皆んなが気持ちを一つにしてやっていかないとすべてだめになりますということで、今は気持ちを高揚させることが一番大変な部分ですね。

○望南海さん 稚内市でも高齢化が徐々に進みつつあります。その高齢者の皆さんの代表として、「稚内笑福芸能大黒ひょっとこ踊り」の副代表、西垣千佳子さんにもお話を伺おうと思うのですが、最北烈風隊と同じくやはり踊りのグループですよね。そんな中で、今まで50年以上活動が続けていらっしゃるということなのですが、いかがでしょうか。

○西垣さん 私たちの「ひょっとこ踊り」会員は、年代が高い層になっています。会長自体がもう84、5歳です。会員の年齢が65から70代です。

私たちの踊りは烈風隊さんと違って、見るお客さんに笑いと元気を与えたいと思い、まず老人ホームから慰問を始めました。それから、稚内市から抜けて、利尻、礼文島、さらに小樽、帯広、今回は伊達まで呼ばれました。来年の9月には秋田に行こうと思っています。秋田音頭というのを、今、新曲で踊っていきまして、秋田と交流で、私たちの稚内の市と港を秋田のほうにも宣伝できたらと思い、踊りを通して皆さんに伝えていきたいと思っています。

○望南海さん やはり最北烈風隊と同じく、大黒ひょっとこ踊りの皆さんも、だんだん会員が減っていくという問題を抱えていらっしゃるのではないですか。

〈ひとつの信念を持ったら買いてほしい〉

○西垣千佳子さん そうです。稚内の女性の市民気質かは分からないけれども、熱しやすく冷めやすい部分があります。何か新しいものが出るといっせいに目を向けるが、少し飽きるとさめる。自分がこれ



司会の望南海（もなみ）さん

だと思ったものに一つ信念を持ったら貫いてほしいのです。稚内にはそこが欠けていると思います。

貫くということは本当に大変なときもありますよ。家庭にも迷惑をかけつつ、それを通していくということは大変なことだと思いますが、私ができるのだから皆さんもできるという確信があります。それを稚内市の女性の皆さんに伝えていきたいと思います。

○望南海さん 持続ということ言えば、「宗谷バス」に勤められてずっと稚内の観光を日本全国の方々に伝えていらっしゃる高橋みゆきさん、今まで育ってきた稚内とこれからの稚内をいかが見ていますか。

〈また来たいと思ってもらえるような「おもてなし」を〉

○高橋みゆきさん 私は漁師の娘に生まれて育ちましたし、祖父や祖母も沿岸漁業で昆布漁に携わっていて、私が小さなころ父は底引き漁業に携わっていましたから、何日も何カ月も帰ってこない父を見送って、そしてまた迎えて、そんな中でわずかな夏休みとか短い時間に、旅行に連れて行ってもらった思い出がすごくあります。今は稚内に来るお客様に、もう1回来たい、ただ楽しかったというのではなくて、また来たいと思ってもらえるような御案内（おもてなし）ができるようにいつも思っています。

○望南海さん 先ほどもお話に出てきました稚内の市民気質、熱しやすく冷めやすいというのがあったのですけれども、これは函館も苫小牧もそんなに変わらないのではないかなと思うのですが、いかがですか。

〈自分のまち、港に対する思いが大切〉

○大西さん 北海道ということでお話しさせていただきますと、その気質は北海道の気質なのかどうかはわかりませんが、熱しやすく冷めやすいというのは日本人の気質かもしれません。先ほど西垣さんが大切なことをお話ししたと思うのですけれども、貫ける信念を持つためには、やはり港等が、過去のを継承しながら、漁業が今は違う形になっていて



パネラーの岩本、西垣、高橋のみなさん（左から）

も、そういうものをいろいろな活動を通して、稚内市等の御協力を得て、後世に残していくようなまちづくりとか、女性の視点でそういうことが必要ということと、皆さんが稚内生まれの稚内育ちであるように、私も苫小牧生まれの苫小牧育ちです。ですから、それぞれの地域ではエゴイストでいいと思います。北海道の中の地域、日本の中の北海道が頑張ろうという感じになるし、こうなってほしいという思いがありますよね。自分の町、港に対する思いがあると思います。ですから、その思いをいかに形にしてみんなに伝えていくかということが、それが“よさこい”であったり、“大黒ひょっとこ踊り”であったり、バスガイドをしている仕事に続いていくのだと思います。

女性の場合は西垣さんがお話しされたように、家庭とか仕事とかいろいろな雑事が多いです。子供も居るし。けれども、そういうことに逃げることなくみんなで、そのためのネットワークなので、不足の部分をお互い補いながらやっていくということが大事だと思います。

私も稚内に来たのは3度目です。苫小牧では港はあまり身じかに感じなく、稚内は港と町が接近しています。だから、そのためには皆さんもほかの港を見て、自分の町、自分の港のいいところを他のところと比較して、こんなにいいところがあるのだということをまたみんなに伝えていくということも大事なのではないかと。

港は、世界とつながっています。まして稚内は、今、ロシアはすごく景気がいいですから、これから

北海道をそれこそ引っ張っていく町だというぐらいの自負を持ってやっていただければと思います。

○望南海さん 苫小牧もそうですけれども、やはり思いを持ち続ける、信念を持ち続けるということでは函館も負けていないと思いますが、やはり熱しやすく冷めやすいというのは、港町気質というのは函館にもあると思うのですけれども。

〈いい人間関係で活動していきたい〉

○折谷さん 自分自身の性格も、やはり熱しやすく冷めやすいのですけれども、今のところ楽しいことばかりして活動しています。周りにいつも楽しい(佐藤)尚子さんも一緒ですし、みんな仲間になると楽しいです。それで、今回も皆さんにお会いできるのを楽しみに、また、先日、苫小牧で大西さんや皆さんにお会いできましたので、またその話もその後、稚内でできるなど。楽しいことを描いて、楽しい人と一緒にいると飽きることはないと思います。活動するにもやっぱり人と人ですから、楽しいことを続けているようにいい人間関係で活動をしていきたいなと思っております。

○望南海さん 人間関係って本当に大事ですよね。そういった中で、多分、人間関係を一番ホットにさせてくれているのは佐藤尚子さんではないかと思いますが、尚子さん、どうですか。

〈手づくりのものをどんどん前に出せばいい〉

○佐藤さん 稚内に来たのは、今回が初めてです。函館生まれで函館育ちなのですから、本当に来



パネラーの大西、折谷、佐藤のみなさん(左から)

れてよかったと思っております。

この会に入って活動をするようになってからは、大好きなこの町で子供たちが暮らしていくためには、目先のことなくもっとここの町が豊かになるためにどんどん出て行かなければいけない。この町に住んでいて楽しいな、良かったな、もっとこの町が潤うような自分たちもできる手づくりのものをどんどん前に出せばいいなという活動をしていったときに、お母さん方とか地域の人と触れたときに伝えていける。この町が潤うためにはどういうことが必要だということを伝えていかなければいけないかと今思っているものですから、自分たちがもっと出て行かなければならないと、勉強をさせていただいて。

○望南海さん 本当に思いを持ち続けるということはすごく大事だなと思うのです。

先ほど大西さんから、稚内を見て港と町が接近しているねというお話もあったのですけれども、どうでしょうか、実際にみなとコンサートに参加してらっしゃる皆さんとして、港と町が接近していると思われますか。

○西垣さん 私は4回出場させていただいているのですけれども、それで、ドームで踊らせていただいて、すばるさんのおかげでひょっとこ踊りも4年にわたって港で踊らせてもらっています。ことしは特に風が強くて、いろいろハプニングもありましたが、それも一つのいい思い出と、いい経験にもなりました。だから、港は本当に大好き。そしてこれからも稚内の港、きれいな港、いい港でなくてもいいのです。入港したときに稚内が暖かい港、私のふるさとなんですという感じになってほしいです。

○望南海さん 同じくみなとコンサートに出演してくださっています、最北烈風隊の代表の岩本さん。

〈もっと何か工夫したらいいものができる〉

○岩本さん まず、私、稚内生まれではなくて、大人になってから稚内のほうに来ました。稚内で働いて今の自分がいるのですけれども、私の育ったところは本当にど田舎なのです。稚内は本当に大きい町だなと私は思っていたのです。

それで、稚内の港というと、ドームがありますよ

ね。このドームを見ただけでもすばらしいところだ
なって思ったのです。それで、観光客をメインに稚
内を活気づかせることを考えていかなければいけな
いと思うのです。

そんな中で、先ほど高橋みゆきさんが言っていま
したように、もう一度稚内に来てみたいという人た
ちを、私たちがひとりひとりではなく、みんなが集
まってやっていくべきものではないのかとすごく最
近思うのです。やはり若い子たちが出て行ってい
まう、それはなぜかという、働き場所がないという
部分だって一つの問題だと思うのです。せっかくこ
んな立派な港町があるのに、もっと何か工夫したら
いいものができるのではないのかと最近すごく思
います。

みなとコンサートも5回やっています。一応私も
会員なのですが、烈風隊のことで精いっぱい
で、踊るだけの状態で毎回出場させていただいて
おります。やることによって周りの人たちが自分た
ちも人前に出て何かできる、見せてあげられるとい
う人の心の華やかさの部分を出してあげたいと思
っています。きっかけをつくってあげないと皆さんが
そういうところに足を運べないということがあ
ると思っています。

〈宗谷観光の魅力について〉

○望南海さん ずっと宗谷の観光に携わってこられ
ています高橋みゆきさんなのですから、今まで
の観光客と、そしてここ二、三年の観光客、旅行と
いうか稚内の観光も違ってきていると思うのです
が、どうでしょう。

○高橋さん 今、稚内に来られるお客様は稚内に来
たいわけではなくて、旭山動物園に行きたくて、そ
れにセットになっているからなぜか来たのかなとい
うイメージが非常に強いのです。そうは言いながら
も、実際お客様に旭山動物園がメインですかと聞
いたら、いや、そうじゃないというお客様の声もあ
るときはすごく嬉しいです。

稚内は風がすごく強いところで、時としてとて
もいたずらをしたり、恐ろしいイメージもあるの
ですが、でも、その風によって上質な「だし昆布」
ができ上がったり、上質の「棒ダラ」ができたりと

か、そういうお話もしたりするのですけれども、そ
して、昆布やらダラを買って帰っていくお客様の姿
を見るとすごく嬉しく思います。

〈稚内は風で成り立っているまち〉

○望南海さん 風の町・稚内って言いますが、
本当に風で成り立っているまち、もしくは港と風で
成り立っているまちと言えると思うのです。

エネルギー最先端都市を目指してという看板も市
役所に掲げられておりますけれども、本当になって
くればいいなと思うのですけれども。

そんな中で、市内で、稚内市では多分初めてだ
と思います。個人の住宅にエネルギーソーラーのパ
ネルをつけられているのが西垣さんなのです。今、原
油高ということで、灯油を焚くのに悩んでいらっ
しゃる方が多分いっぱい居ると思うのですけれど
も、西垣さん、そんな中で先に目をつけられたとい
うのはどうなのでしょう。

〈環境にやさしいソーラーパネルを 自宅に取り付けました〉

○西垣さん 私たち夫婦は、新エネルギーの会員で
いろいろ勉強し、そして温暖化を食い止めるには、
まずは家庭から見直したほうがいいのではないかと
私たち夫婦で相談の上、設置して、もう3カ月ちょ
とになります。データから、曇りでも雨でも、冬で
も電気が起きるということを確認しました。

パネルの枚数は、屋根に33枚ついています。33枚
で大体電気発生代金が月に5、6万円とすると、家
庭では煮炊きするガスもいらなくなります。電気使
用料、それらを全部引いたら、家庭で3万円使った
としても、北電さんからその分を引いたものが入
ってきます。そのほかに蓄熱暖房、深夜の安い電気を
蓄熱しておいて、日中その暖房で賄うのですけれど
も、主婦としてはつけて本当によかったなと思っ
ています。

環境にもいいということもありまして一石二鳥。
ただ、稚内市内の方で、うちには聞きには来るけ
れども、じゃあうちもやりましょうかと言ってくれる
人はまだいない。一般家庭ではまず聞いていません。
○望南海さん 先ほどもお話に出ていました持続す

ること、長く続けることというのが物すごく大切なのだなということがよくわかるのですけれども、岩本さん、最北烈風隊はことし10年となると思うのですけれども、持続という意味から言うと非常に今難しい時期に立たされているのではないかと思います。

〈好きじゃなければできないが、 何により家族の理解がはげみ〉

○岩本さん 私はもう約10年目に入っています。私より早く入った人たちも、半分ぐらいが今残っている現状なのですけれども、そういう人たちは本当に好きなのだろうなとまず思うのです。

持続というのは、先ほども出ていましたけれども好きじゃなければできない。思いがなければやはり続けていけないのではないかなと思っています。やはり一つのを町のために、元気を与えるために、皆さんが喜ぶためにと思ったときには、本当に好きだけではできないなという部分と、当然家庭がある人は家庭も犠牲にしなければいけないのですけれども、後はどれだけ家庭の人たちが、理解してくれるかなのです。やはり本人ではないと、そのつらさは味わえないと思うのですが、一生懸命やっている姿を見ると人間って反対できないと思うのです。心の中で、何でお前きょう行くのよって、たと思っていたとしても、やはり協力してあげなければいけないと、それが人間の情ではないのかなと自分で思うのです。だけど、現実としては仕事もあり、家庭もあり、それで子供が小さいと本当に大変だなと思っています。

自分が一つ恵まれていたのは、子供がある程度大きくなってから、ある程度時間を費やすこともできた。しかし、よく子供にも言われます。あなたのおかげで寂しい思いをしていたのだよと、今でも言われますよ。

○望南海さん 女性が地域活動を続けていくということは、本当に難しいことだと思うのですね。

そんな中で、高橋みゆきさんは御主人が歌をつくって、その歌をみずからが歌うということもなさっていらっしゃるのですけれども、やはり夫婦関係がうまくいっているからなせる技でしょうか。

○高橋さん そうですね。お互い共通のというか、バスの関係の仕事をしていることもあって、最初にお話ししましたけれども、自分たちのふるさと稚内をたくさんの人に見てもらいたい。また稚内に行きたいと思うように歌いたいという思いが多分共通しているところと思います。

〈活動を持続させるには〉

○望南海さん やはり活動を持続させると、そういうことが非常に難しいという話が出ていますのですけれども、苫小牧の会員の方で、今、非常に盛り上がっているというか、皆さんが一体になって活動を続けているという感じがありますけれども、どうでしょう。

○大西さん 皆さんと同じ悩みがあります。やはり自分たちだけでやるのではなくて、北海道全部の港のまちづくりのネットワークの女性の方々の協力や、やはりネットワークというか、自分たちだけ頑張っても難しいですよ。どんなに頑張っても、有望な、優秀な人がいても一人では継続は困難だと思います。それと、もう一つ自分自身の経験からすると、母親がしっかり活動でも仕事でもしていたら子供はおかしくならない。それは私の自分の体験から、生半可なことではないですよ、真剣に母親が活動でも仕事でもしていて、子供は非行には走らなかった。そういうことの信念も、まちづくりとみなとまちづくりと同じように大切なことだと思います。

女性の基本にあるのは、やっぱり建設的な意見、プラス思考で、文句を言いたい。これはだめだとか



オブザーバーのみなさん

ああたとかではなくて、だめなものにだめだと言ったら、これは子供の教育も同じです。その中で積み上げていくプラス思考、本当はだめであっても、どうしたらもっとよくなるのかという、そういう考え方を持っていると、女性と男性のコラボレーションで絶対に稚内がよくなる、北海道、日本がよくなる、そのぐらいの気持ちで一緒に頑張っていたいただければと思います。

○望南海さん 心意気を見せる、そして真剣に母親が活動している姿を子供に見せるということでは、折谷さんや佐藤さんも同じように多分活動しているんじゃないと思うのですが、いかがですか。

〈地域の人が見学会や勉強会をする〉

○折谷さん 函館のみなとまちづくり女性ネットワークは、平成15年に立ち上げました。そのときは会員4人だったのですが、少しずつ人がふえてきて、本年度は全部で14人になりました。その中には、主婦の方やお仕事を持っている方、あと、活動されている方なのですが、私たちは港町に住んでいて何をしているのだろうか、歴史のことを知っているのだろうかと考えたときに、余り言えないのです。それで、港湾事務所さんのほうで港町のことを教えてくれるだとか、その辺をNPOさんの方がいらして下さって親子で見学会を行ったりすると、地域に住んでいる人がそういう見学会とか勉強をすることによって、文化だとか函館のことを、町並みを見て改めて函館ってこんなにいいところだったのになって、その方からいろいろ説明を聞いて、子供たちもきょうは参加してすごくよかったですといっております。

余り意識して活動しているわけではないのですが、何度も言うようですが、だれかに会える楽しみだとか、活動していてみんなの笑顔を見て、その喜びだとか、そういう活動をしているからいろいろと行動を広くするのもそうですし、いろいろなまちづくりの活動を長く続けていけるのではないのかなと思います。質問と答えが違うかもしれませんが。

○望南海さん 地域の勉強というか、地域の皆さんみんなで分かり合おうというのはすごく大事なこと

だと思うのです。

大西さんも折谷さんもおっしゃいましたけれども、楽しいことは自分だけじゃなくてみんなで広げてやろうということでは、いかにも（佐藤）尚子さんにふさわしいテーマだなと思うのですが、尚子さんどうですか。

○佐藤さん 今の子育ての話では、私、すごく失敗している方だから、それに私は働いているわけではないし、主人が私たちの世界一のボランティアなのです。とにかくどこでも行きたくなる私を、よくもプチンと切らずに放し飼いをしてくれている。こんなに大きく（気持ちも、体も？）してくれたのは主人だから、でも、そこまで来るにはやっぱり夫婦のいろいろな格闘もあったと思う。個人個人にはそれぞれ一生懸命やりたいという気持ちはあるのだけれども、いろいろな心の格闘があり、外に出ない人もたくさんいる。

○望南海さん 西垣さん、どうぞ。

〈ゴメやカモメが港から居なくなる〉

○西垣さん 子供のころから、ゴメ、カモメは海の上でしか頭になかったの。山の中でカモメが飛んでいる姿が異様な光景に見えて、何で港に帰ってくれないのかと思ったら、食べ物かなと思って。それだけ稚内のお魚の資源が鳥たちにとってはなくなったのかなと、そういう寂しさをすごく感じましたね、そのときに。食べる餌がなくなって山の中にいる。

○大西さん それはチャンスですね、どうして港を今きれいなのか、船からおろしたときにどういうふうに処理をして市場に持って行くかの勉強をする。稚内の方でしたらすごく分かると思うのですが、

〈これからの港町稚内、 そしてこれからの北海道〉

○望南海さん 後半は、今までの話を踏まえながら、これからの港町・稚内、そして、これからの北海道全体ということを考えながら、皆さんに自分の思い、それから自分の活動をどうしていこうかというお話をさせていただければいいかと思うのですが、まず、岩本代表どうですか。

〈地域の連携が大切〉

○岩本さん 稚内に住んで、生まれた古郷よりは長くずっと住んでいます。西垣さんじゃないのですけれども、ここが自分のふるさとだなと。やはりどうにかしたいという気持ちが先に起きてしまうのです。

今、チームを持っているけれども、チームもどうにかしたいけれども、それプラス稚内もどうにかしたいと。本当に偉そうな言葉かもしれないのですけれども、そういう人たちがたくさん集まることによって少しでも稚内が活気づくのではないかなと。活気づくためには横のつながり、ここに隣の“ひょっとこ”さん、“最北烈風隊”さんというのは今でも手をつないでいますけれども、そういう手をつないでいる人たちがもっともっとふえていくことによって力強いものができるのではないかと私は思っているのですよ。夢に近づきたい。それを実現するためには、私たちが歩かなければいけない、話さなければいけない、声もかけなければいけない、そういう動きというのをとめてはいけないと思っているのです。

悩みはすごくあります、チームを持っている以上。やはり潰したくないゆえに、もっと稚内と例えば最北烈風隊さん、二人三脚ではないのですけれども、そういう歩き方をしていきたい。学校もそうですし、やはり地域と連携をすることによって、私の望みはこういうチームと学校のチームと地域のチームで、何か年に1回でもいいから発表とか、みんなに屋台で歩いてもらって楽しむ、そういう場があってもいいかなというのが私のずっと夢だったのです。できるかどうかはわかりませんが、そういう形はいつまでも持っています。

○望南海さん 声をかけてあげるってすごく大事なことだと思うのですが、西垣さん、いかがですか。

〈稚内をアピールしていきたい〉

○西垣さん 以前のフェリーの中は、通路も寝る場所も、座る場所もなく、立ったままの姿勢で2時間なりを離島までフェリーが出たこともありましたが、今のフェリーの中の状態はもう広々としていま

す。それを思ったときに、観光客はどうしたのかな、利尻、礼文、稚内はどうしてこう寂しくなったのかなと、本当に寂しく感じています。

ですけれども、個人ではできない力でも、皆さんとともに、私たちの踊りもそうですけれども、道内から道外へと稚内をアピールしていきたいと思っています。

○望南海さん 稚内をアピールするということでは、高橋みゆきさん。

○高橋さん 稚内に住んでいながら、ひょっとこ踊りも、烈風隊のほうはテレビで見ますけれども、地元にいながら、自分も仕事をしているのでなかなか見る機会がなかったのですよね。でも、“すばるさん”は港でコンサートとか、それも残念ながら見たことがなくて、でも、こうして出会いがあつてこういう場に参加させてもらって、何だかわからないけれどもここに居るのですけれども、でも、やっぱりそういうつながりがあって、函館さんですとか苫小牧さんともこうやってつながりができるというのはすごい嬉しいことなので、これからもずっとおつき合いをさせていただけたらいいなと。それがきっとこれからつながっていくと思います。

〈自分たちの力量に合った活動〉

○望南海さん つなかりを大事にしていくことというのが、これから稚内の発展のキーポイントになるのでしょうか。

それでは、苫小牧はどうでしょうか。

○大西さん 苫小牧は、自分の意思とは関係なく国



みなと座談会

オブザーバーの「稚内の女性ネットワーク会員」の皆さん

の特定重要港湾になっていますから、それと市民の感情とか、まちづくりと必ずしもマッチングしていないというジレンマが生まれ育った者としてあります。北海道には特定重要港湾、重要港湾 12 港があるので、各地で余りばらばらにやらず、再来年（平成 21 年）函館港が開港 150 周年となると、そこで集中的に、みんなが、一つになってやっていくみたいな活動も、今回苫小牧での北海道海産物フェアをやってみて、大事でないかと思いました。

余り無理に、ハッチャキ（無中になること）になり過ぎると、後が抜け殻になってしまうので、やっぱり自分たちができる、余り背伸びしない、一応、役所とか行政関係も、予算とかいろいろ、今、家計と同じで、国の財布もお金がなくなってきましたから、そういうふうなことを意識しながら、余りむちゃくちゃな提案ではなくて、やっぱり自分たちの力量に合った活動というのかな、無理は続きませんから、やっぱり持続させることをみんなの目標にして、だれでも参加できるような工夫をみなとまちづくりに取り入れていけば、子供連れでも参加しやすいように子供の好きな人にも参加してもらうようにすることで、自然体の中でできていく。そこを無理して、託児所が必要とか、何でもかんでもとなってしまうと、そこに無理が出て、やれないとなってしまうから、やっぱり無理しないで自分たちの力量に合ったみなとまちづくりがあってもよいのではないかな。

〈視点を変えてみることも〉

○望南海さん 女性の視点ってすごく大事なことだと思うのですよね。この全道の女性ネットワークが立ち上がったのも、男性ばかりの視点から見てきたこういうハードな港の施設を、女性の立場から女性の視点で見たときにどうなのかということから多分立ち上がってきたと思うのですよね。

そういった中で、稚内の女性ネットワークでも、ほかの女性ネットワークでも行っていると思うのですが、ポートウォッチングってありますよね。いつもは陸から、丘からしか見ていない海を、実は海から見たら稚内市街地ってどう見えるのかとやっているものもあるのですけれども、女性って一つの視点のほうにハッチャキに見てしまうところがあって、

だけでもちょっと視点を変えることによって、ああ、こんな面もあったのだ、稚内にはこんないいところもあったのだというところも結構あると思うのですよ。そういったところを勉強していくということも大事と思うのですけれども、折谷さん、どうですか。

〈縁を大切にしながらネットワークを広げる〉

○折谷さん みなとまちづくりの活動をするようになってから、全道各地で活動している女性と何度も顔を合わせていると、「また会ったね、お元気」というふうにもいろいろなところで会える、本当にそれは御縁だなと思っています。函館でもまだ御縁のない方や団体の方がいっぱいいるのですけれども、自分たちが活動しているときに楽しそうにしていると、あの人たちの団体もいつも楽しそうにしているねとなると、気にしてくれたり、注目してくれるようになる。やはり自分たちが楽しく輝いていると、そういうところには人が集まってくるのではないかな。それが、次から次とネットワークになってくると、自分たちで悩んでいることも、稚内はこうだけれども、函館はどうですかとか、苫小牧はどうなのと、そういう相談もできるような人間関係になれるのが人と人とのつながりなのかな。それがネットワークだなと思っているので、これからお互いに御縁を大事に楽しく自分たちが活動していけば、地域の人も、他の活動をしている人たちも、この活動がきっかけになるのではないかなと思っています。

○望南海さん いつも笑顔が輝いている（佐藤）尚子さん、どうでしょうか。

〈港の見学は土日にも船に乗せてもらえたら主婦は助かる〉

○佐藤さん 先ほど、望南海さんとお話しした海から見る話、わたしは海から、岸壁から港を何度も見ているのです。函館の港湾事務所で船を出して下さったときにも乗っていますよ。はじめの数回は説明を全く覚えていません。何て景色がいいのだろうって、何かをしゃべっているのはわかるのですけれども……、しかし、5 回目を過ぎたころから初めて一緒に行った人に、この岸壁の深さは 20 m なんだったとか、こういうふうにして波を防いでいるの

だとか、いつの間にか私が説明しているもので、勉強はすごく大事ななと思いました。一生懸命説明してくれている人には悪いのですけれども、難しくて、楽しくなくて、それも土日は乗せてもらえない、本当は無理かもしれないけれども、もしもできるのであれば土日に乗せてもらえたら主婦としては助かる。最近、ここが地震にあったときに、どこから私たちを救ってくれるのかとか、道路が寸断されたらどこから持ってくるかというのも勉強をかなりしたのですよ。ようやく今ちょっとしゃべれるようになりました。海からなのですね、支援物質。そのときは、やっぱり地震にも耐えられるような港をきちんとつくらなければ、実際ここに生きている人たちが助からないというのを感じてきたものです。今までは市役所とかで一生懸命やられて、道路はいつまでもつながっているものと思ったのですけれども、日本は地震国でいつどうなるかわからない。そういうときは、もう少し自分たちが、ちょっと苦しいかもしれないけれども、もっと港を整備しなければいけないとか、そういうのを何十回と勉強してようやくわかったのです。

○大西さん ちょっと補足ですが、役所にきちっとした形で申請をすると土日でも船を出してもらえることもあるのでないか。苦小牧では出してくれます。

○望南海さん 稚内も祝日や海の日に出していただきました。

〈このあと、オブザーバーの皆様方から一人一人感想を述べていただきました。大方、大変有意義な座談会であったとの感想をいただきましたが、紙面の都合で省略させていただきます。〉

〈座談会はネットワークを広げる場〉

○望南海さん それでは、座談会でまだまだ話をしたいという思いはたくさんあると思うのですが、そろそろ時間も近くなりました。

それで、きょうは非常に寒い会場で熱い話をさせていただいたということで、きょうは熱気あふれる

話がいっぱい聞けました。

きょうは皆さんの悩み、そういうことは我々の男どもには分からないだろうというお話を伺えました。非常に熱しやすく冷めやすいというのは、私なんかはぴったりそれに当てはまる。それをいかに家庭の障害を破って、旦那さんを一生懸命説得して、納得させているという、そのテクニックを使っているか、本当に頭の下がる思いがしました。

それから、この会の一つの目的に、これを機会にせつかく皆さん顔を合わせたのですから、お互いのいろいろな悩みをいろいろな機会を活かし、そしてこれからのネットワークを広げる場として使っていただければ大変ありがたいと思っております。

きょうは稚内の女性ネットワークの皆様方に変なお手伝いをいただきました。

それから、本日この休館の会場を特別に貸してくださり、この会場の設営についてお世話になりました稚内市の建設産業部のみなさん、改めて感謝を申し上げます。

最後に、今回ご参加の皆さん今後の御活躍と御健勝を祈念しまして、これで終わりたいと思います。本当に長い間どうもありがとうございました。(拍手)

*座談会のもようは、以上のとおりですが、座談会の終了後、稚内市の協力で急遽「宗谷岬」まで行き見学することとなり、今回のパネラーとして参加していただいた高橋みゆきさんの案内で、往復の2時間「愛する宗谷」について切々と説明していただき、また、ご夫婦でつくった素晴らしい歌も聴かせていただき、暗やみ迫った宗谷で周りがよく見えなかったが、名ガイドでアッという間の時間を過ごすことができました。心より感謝いたしております。

(事務局談)

〈ご紹介している内容は、読み易く、分かり易くするために調整した部分があります。ご了解ください。〉

みなとパネル展

稚内開発建設部は、平成 19 年 11 月 25 日(日)「稚内副港市場」において、「みなとパネル展」を開催しました。このパネル展は 11 月 27 日(火)の「ザ・シンポジウム in 稚内」に合わせて開催されたもので「稚内副港市場」の“ふれあい広場”において 10 時から 15 時まで 5 時間にわたり行われました。

パネルの内容は、稚内開発建設部が制作した、明治、大正、昭和の時代の稚内港の様子をはじめ、港に関するいろいろな情報を分かり易く纏めたものを合わせて 30 枚のパネルを展示、来場者に観覧して戴きました。

このパネル展では、当 NPO 法人が稚内開発建設部から役務業務として実施されたものですが、パネルの説明とアンケートの配付、回収、集計解析を担当しました。

アンケートは、パネルを見て戴いた後、“今後の稚内港整備や広報の参考とさせて戴くため”に、①パネル展について、②稚内港について、③あなたご自身のことについて、の三つの区分に対して、それぞれ回答して戴きました。

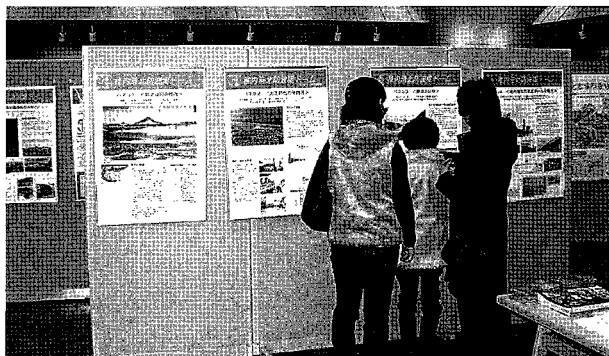
回答は、58 名の老若男女に協力して戴きました。アンケートの中で“稚内港整備に関する質問・要望など”については次のような回答がありました。

〈20 歳未満〉

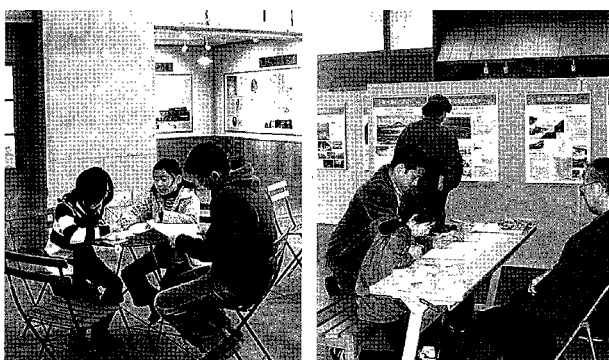
子供の絵を稚内ドームに書いてみてほしい、皆が楽しめる安全な場所がほしい、環境に優しい公園を造って、もっと大きな船が入れるようにして、街灯を付けて、夜の観光も出来るようにして

〈20 歳以上 50 歳未満〉

夜の港を明るくして、自然が豊か、人々は温かい、



パネル観覧状況



アンケート記入状況

稚内の事をもっと PR すべき、港をもっと綺麗にして観光客にも気を引くように、四季を通じて親子が楽しく遊べる施設がほしい、公園を増やして

〈50 歳以上〉

最北端の景観がよい、副港市場の近くに宿泊施設を、港内遊覧が出来るようにして、港周辺の歩道を安全にして

回答者の傾向として大多数(86%)は稚内市民であり、近隣市町村や道内道外の方々の意見が少なかった。

NPO パネル展

当 NPO 法人は、平成 19 年 11 月 27 日「ザ・シンポジウム in 稚内」の開催に合わせ「パネル展」を開催しました。

開催場所は、シンポジウム会場と同じ稚内全日空ホテル入り口付近エントランスにおいて、12 時から

15 時 30 分までの時間帯を利用して行われました。

パネル展の内容は次のとおりです。

◎北防波堤ドーム(ドームの今)

◎稚内港湾のあゆみ(昭和時代)

◎稚内港湾のあゆみ(平成 11 年～平成 12 年)



パネル展示状況

◎稚内港湾のあゆみ（平成 15 年～平成 16 年）

◎北海道のみなと

◎便利な箱・コンテナ

◎フェリーのはたらき

◎世界とつながる北の扉

◎人々の交流拠点“みなとまちづくり”

◎これからの北海道のみなと



シンポジウム参加のため来場されました方々は、しばし足を止めて見入っていました。

「北海道開発局防災エキスパート」平成 19 年度研修会開催

研修会は、北海道開発局と当 NPO 法人の主催で、平成 19 年 12 月 11 日 15 時から 17 時まで「かでの 2・7 道民活動センター」において開催されました。

開催に先立ち、山口港湾空港部長からご挨拶を戴いた後、防災に関わる講演として、(財)日本気象協会北海道支社の祐川弘一様から①気象・海象の警報に係わる改善実態、②台風・地震・津波に対する緊急の実態と防災運用について、と題し講話がありました。

次に「防災に関する情報提供」と題し、港湾建設課田川係長、空港課平尾係長、水産課小暮水産事業管理官からそれぞれの立場で、①災害時の体制と情報収集について、②北海道地域防災マスター募集(第 II 期)について、などの説明がありました。

つづいて、「要望事項等」として、防災エキスパート及び当 NPO 法人事務局から、それぞれ意見や要望が出されました。

質疑応答の主なものは以下のとおりです。

①防災エキスパートの主な任務は、大規模な災害等が発生した時、港湾事務所に赴き所長に対し(災害の復旧、災害査定などの緊急を要する事務処



研修会風景

理など)的確な助言を行うことである。(事務局)

②事務局(港湾建設課)から当 NPO 法人事務局に緊急連絡があった場合、NPO 事務局は、迅速に防災エキスパートに伝えるために必要な連絡網図を整備する。

③防災エキスパートの任務について、具体的なイメージが分かるようにするための資料は事務局が整備する。

この後、数土港湾建設課長から閉会のご挨拶があり研修会は終了しました。

〈お知らせ〉

*当 NPO 法人は、去る 6 月 1 日からホームページを開設しております。

アドレス <http://minatobunka-npo.info/>

*また、ホームページの「お知らせ」欄には皆様方へのお知らせ事項があり、できるだけタイムリーなものにするため、追加情報を入れていきますのでご覧ください。

*平成 20 年度の事業についての紹介は 3 月末を予定しています。